



発行所
岡崎市立葵中学校
(電話 21-0171)
(FAX 21-0172)

7月号

市長杯、2年半の思いを、感謝の気持ちを込めて 全力で戦いました。

自主性・主体性

校長 荻須 文裕

教室からあふれ出した歓声は、校舎を包むかのようでした。これは、六月二十八日の葵夏祭りのことです。もちろん、期末テストを終えた開放感もあるでしょう。しかし、生徒たちのはじけるような笑顔には、それだけではない、生き生きとした力強いエネルギーを感じました。

葵夏祭りは、生徒会が行う一学期末のイベントです。生徒会役員が呼びかけ、各クラスで係を決めて、ゲームの小道具を作ったり、ルールの説明を考えたりします。そして当日は、ゲームを運営する生徒と、他のクラスを巡って楽しむ生徒が交代しながら、二時間程のお楽しみタイムとなります。それぞれのゲームは、期末テスト後のわずかな時間を使って準備をし、画紙を使ったコマ回しとか鉛筆立て競争とかとても単純なものばかりです。それでもこれだけ笑顔になれるのは、自分たちで準備をして楽しむことの喜びが、そこにあるからだと思います。

先日、ある講演で「自主性と主体性」について話を聞きました。学校教育ではともに、大切にしたい子供の姿です。「自主性」を、誰かに言われるからではなく自らやるべきことを行う姿と

するならば、「主体性」は、目的や意味をとらえ、自分の意志で考え、行動する姿といえるでしょう。

今年の葵夏祭りは、全校で同時刻に実施したものの、ゲームへの参加は、密を避けるため学年内に限定しました。学年を越えた交流がしづらい現状は、生徒会役員たちの課題の一つです。そこで、タブレットを使って全校でアンケート調査をしたり、テレビ放送で全校に呼びかける機会を増やしたりするなど、新たな活動も工夫しています。生徒会活動を全校で進める大切さを考え、生まれた姿です。

夏は運動部にも文化部にも、大きな意味をもつ季節です。自分が、これがよいと決めて始めた部活です。自分で必要なことを考え、活動を工夫したこともあるでしょう。自主的、主体的に活動するからこそ、自分が得るものは大きいです。

勉強も同様です。生活経験も同様です。実りの大きな夏となることを期待しています。



葵夏祭り

六月二十八日(月)

葵夏祭りを通して

生徒会役員

二年ぶりに開催することができた葵夏祭り。僕は、企画・運営を担当しました。僕のクラスでは、一分間にとだけ長く紙をちぎることができるところを競う「紙ちぎりのばし」を行いました。当日は、クラスの壁を越えて、全力で楽しむ姿をたくさん目にすることができました。



初めての葵夏祭り

一年五組



私たち一年生にとって、葵夏祭りは初めての行事でした。五組は「画紙コマ回し」の出し物を担当しました。最初は、わくわくと不安の気持ちがありましたが、準備や本番を通して、掛け声や行動がそろう、少しずつクラスが一つになっていくのを感じました。そして、私たちは、中学生として少し成長できた気がしました。

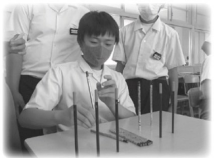
今後は、行事を行うことが難しくけれども、これからも日々の生活の中で級訓「ゼラニウム」のように、仲間との絆を深めていきたいです。

協力し合うことで

二年一組

私たちが二年生にとって、今回が初めての葵夏祭りでした。新型コロナウイルスの影響で思い通りの生活ができず、これまでに学年全体が仲を深める機会があまりありませんでした。準備のための限られた時間の中で試行錯誤し、どうしたら効率よく進むか、どうしたら学年の仲間を楽しんでもらえるか考え、当日を迎えました。

二年生全員が協力し合えたからこそ、葵夏祭りを盛り上げることができたと思います。今後何事も協力することを大切にしていきたいです。



団結して

三年二組

私は級長になるのが初めてだったため、級長主体のこの行事を成功させることができるかどうか不安でした。しかし、学級の出し物を進行する中で問題が発生したとき、運営係の二組の仲間だけでなく、ゲームに参加する他の学級の子たちも自然に助けられました。とてもうれしかったです。

この行事を成功させようと頑張る運営係の子たちと、全力でゲームを楽しむ子たちが互いに一体となって葵夏祭りを作り上げ、さらに絆を深めることができました。

二年半の部活動を終えて 努力することの大切さ

ソフトボール部

私は二年半の部活動で努力することを学びました。一・二年生のころは、ヒットを打つことができず、悔しい思いをしました。そこで、私は「一日五十回」と決めて素振りをしたり、先輩や友達にアド



成長できた二年半

女子バスケットボール部

バスケットボールは、常にコミュニケーションをとることが大切です。だから、私たちは練習で常にコミュニケーションをとる機会をとり合い、試合でも自然にできるよう意識してきました。



今回の市長杯では、一回戦で福岡中と戦いました。第一クォーターから、いいスタートを打つことができ、その後も仲間と励まし合いながらプレーし、勝つことができました。二回戦の岩津中との戦いでは、残念ながら負けてしまっただけですが、その試合の中でも、声を出し、仲間とコミュニケーションをとる事ができて嬉しかったです。二年半やってきたことを、悔いなく発揮することができてよかったです。

部活動を通して

ハンドボール部

僕はハンドボール部の活動を通して成長したことがあります。それは、礼儀正しい態度と自己主張です。僕たち

は部活動の中で積極的に声出しや挨拶を意識してきました。また、先輩が仕事をしていたら代わったり、プレーの中で話し合いたいことがあったらと、とん話し合ったりしてきました。このように意識してきた行動が、礼儀正しい態度や自己主張につながったのだと思います。二年半の部活動生活で育んできた人間性をこれからに生かしていきたいです。



部活で学んだこと

野球部

僕たちは日頃から、仲間と声をつなぐことや、基本を当たり前前に行うことを意識して練習してきました。また、プレー以外の面で、挨拶や礼儀の大切さ、チームで活動することの意味なども常に考えてきました。特に僕は副主将として、主将と協力をしながらどうやったらチームがより良い方向に向かうかを考えてきました。意見がぶつかり、考えが合わなかったり、難しいこともたくさんありました。とても良い経験ができました。今後の生活では、部活動で学んだことを大切にして過ごしていきたいです。



一学期を振り返って

多くを学んだ一学期

一年二組

コロナ禍が明けない四月、私たちは葵中学校に入学しました。昨年はさまざまな行事が縮小、中止となり悔しい思いをたくさんしてきました。今年はどうなるのか、正直不安な気持ちも大きい中学校生活のスタートでした。入学後、しばらくしてから学年レクが行われました。学級の仲間と協力してレクリエーションをする中で、友達が増え、学級の絆の深まりを感じました。仲間と思い出をつくることができ、本当に楽しかったです。この先の行事でもっと仲間、そして学級の絆が深まることを考えると、入学のときの不安な気持ちはなくなりました。

また、一学期は初めて順位がつく定期テストがありました。テスト週間、どのように勉強を進めればよいのか、不安と緊張でいっぱいでした。そのような状況の中、テストが終わわり、がんばったこと、努力が足りなかったこと、それがそのまま結果に表れることがわかりました。一学期のテストでは、目標としていた順位に届かずとも後悔しました。二学期では、目標に届くよう勉強に取り組み、後悔しないようがんばりたいです。

今、友達と向かい合って給食を食べること、部活の先輩を大きな声で応援すること、海の学習など学校行事を行うことなど、当たり前に行っていたこ

とができなくなっています。だからこそ、二学期も精いっぱい過ごし、一つでも多く仲間との思い出が作れるようがんばりたいです。

二年生の自覚をもった一学期

二年三組

昨年度はコロナウイルスによる休校で二か月遅れのスタートとなってしまいましたが、今年度は四月からスタートができたことがとてもうれしく、張り切って二年生をスタートさせることができました。

一学期でいちばん印象に残っていることは、葵夏祭りです。自分たちが担当となった出し物をスムーズに運営させようと、クラスで協力し合うことで、クラスの団結力が深まりました。また、他のクラスで準備された出し物も全部回り、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また、MAAXでは、校則をより良いものに変えるために、クラスのみなが積極的に意見を出して話し合いました。二年生になり、葵中の中心となりがんばってこういう意識を感じました。

一学期の生活を通して、学年テーマの「HERO」に込めた思いの一つである、「毎日大切にしたい、二年生全員で協力して、たくさんの思い出を作りたい」という気持ちを強くしました。二学期は、二年生が部活の主体となります。先輩として、自分ができることを考えて、率先して行動していきたいです。

挑戦

三年六組

僕は今まで、人をまとめる役に立候補したことはありませんでした。でも、周りの子たちが生徒会をはじめ、姿を引っ張る役割に立候補している姿を見て、「自分もみんなの前で堂々と話せるようになりたい」「自分を変えたい」という気持ちが強くなり、級長、学年代表に立候補しました。

学年代表をやっていると、うれしかったことが二つあります。

一つ目は、自分たちが考えた学年レクで、学年の絆が深まったように感じられたことです。学年のみんなが楽しんで笑顔で参加してくれたので、とても達成感を感じました。また、修学旅行が延期になってしまったため、学年全体で交流することができた貴重な時間となり、より印象に残りました。

二つ目は、学級や学年の前に立って話をするとき、相つちを打って聞いてくれる人が多いため、自分が一生懸命考えた話を真剣に聞いてもらえると、うれいし、学年代表をやったよかったと思いました。

僕は、学年代表に立候補したときに「普通力・自浄力・自律と創造」を公約として掲げました。二学期は、その中でも特に「人ひとりが自分で考えて行動できる」「自律」を学年全員で意識できるよう、改めて呼びかけていきたいです。二年生や先生方から、「この人たちが三年生でよかった」と思ってもらえるように、今後も努力していきます。

最後の夏、いざ出陣
選手激励会・市長杯



▲総代さんにボランティアを志願



新型コロナウイルス感染症の対応による校内外の行事の縮小や変更を考慮し、葵中新聞の発行が不定期となります。ご了承くださいませようお願いいたします。

表彰の記録

岡崎・幸田ソフトテニス三年生大会

岡崎サッカーフェスティバル兼
準優勝

桜祭り大会 サッカー部 三位

優秀選手賞

中白コンクール西三河北地区大会

小編成の部 吹奏楽部 銀賞
市長杯の結果については、次号で報告いたします。

ハ・九月の予定



八月

二七日(金) 二期期始業式

三〇日(月) 生徒集会 給食開始

三一日(火) 四時間授業 給食なし

九月

一日(水) 南海トラフ地震避難訓練

(シエイクアウト訓練)

二日(木) 岡崎学力検査(二年)

委員会

生徒集会

後期生徒会役員選挙

十五日(木) 体育大会一日目

十六日(木) ひまわりプロジェクト

十八日(土) 体育大会二日目

二一日(火) 委員会

二七日(月) 授業参観 夏休み作品展

新人戦激励会 全校集会

キッズデイズ(十月一日(金)

新人戦(十月三日(日))

葵が丘



さあ、夏休み

教頭 山口 裕剛

「感謝の気持ちを持って魅せます。夏の大会・コンクール激励会で主将たちが熱く宣言した日から二十日余り。この新聞が君たちに渡るころ、市長杯は幕を閉じている。勝者も敗者もいる。悲喜もごもの中で終業式を迎える。どちらも胸を張ってほしい。三年生を中心とした君たちの部活動での姿から、葵中生は勇気と自信を手に入れた。

☆

さあ、夏休み。三十七日もある。何がしたい…。何でもできる…。無為に過ごすな。もったいない。

では、何を一番やってほしいか。それは、本を読むことだ。文章を読み進むうちにそれが頭の中で絵になってくる。想像力が膨らんでくる。この想像力が、人生には大切なのだ。それに時折、胸を打つ言葉に出合う。これがまた人生に生きてくる。

では、何を一番やってほしくないか。それは、自分を大切にしないことだ。自尊心を失ってほしくない。冷静な判断力がほしい。弱気にならないことだ。

☆

今、真上に灼熱の太陽がある。それが三十七日経つと、少し和らいで葵中生の背中を押すようになる。そのとき、葵中が燃える二学期が始まる。